

講義名	対2)基礎心理学			授業形態	
担当教員	蜂屋 真	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

まず、心理学の研究対象、研究法、研究領域について講義する。次いで、心理学に研究対象である心と行動に深く関わる脳器、脳について講義する。さらに、知覚、学習、知能、発達のような知見について講義する。最後に社会心理学の知見について講義する。

到達目標

心研究法、脳、知覚、学習、知能、発達、社会行動など、心理学の基礎的項目について理解し説明できるようになる。

提出課題

授業の進行に従って、学生諸君に様々なレポートを書かせる。それを授業に反映し、活用する予定である。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業中に書かせたレポートに対して、随時コメントを行う。

評価の基準

授業中に何らかの理解度試験を行い、それらの成績の合計で最終評価する。従って、学期末の定期試験を行わない。

履修にあたっての注意・助言他

授業中に何らかの理解度試験を行うが、これを予告なしにランダムに行う。従って、授業を欠席していると、単位取得が難しくなる。なお、認定心理士の取得をめざす諸君は、この授業を必ず履修しなければならない。教科書は心理学概論の教科書と同一である。

教科書	.心理学要論.	福田由紀編	培風館	2100	4563052159
-----	---------	-------	-----	------	------------

参考文献

その他

関連資料は授業中に配布する。

授業計画

- 心理学とは：心理学の研究対象、心理学の考え方、研究領域（2章）
- 行動の生理学的基礎（1）：大脳皮質の機能期在、大脳半球の反対側支配（3章）
- 行動の生理学的基礎（2）：言語野、失語症、言語の臨界期（3章）
- 知覚（1）：通感・錯視の体験（4章）
- 知覚（2）：形の知覚、図と地、まとまりの法則、幾何学的錯視、月の錯視（4章）
- 知覚（3）：空間知覚、運動知覚（4章）
- 学習（1）：オペラント条件づけ、シェイピング、強化スケジュール（6章）
- 学習（2）：ナンバリングの言語行動
- 知能（1）：知能テストの実態・長点・解説（12章）
- 知能（2）：知能の定義、知能テストの仕組み、知能の決定要因（12章）
- 発達（1）：思考の発達、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期（11章）
- 発達（2）：社会性の発達、愛着・適応性・仲間関係の発達
- 社会（1）：群衆の心理、パニック、阪神淡路大震災
- 社会（2）：うわさの心理、流言、都市伝説、インターネット時代のうわさ
- まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業内容は、授業計画に付された教科書各章に対応する。1回の授業につき、予習として授業内容に対応する教科書の箇所を読んでおくこと（2時間）、復習として教科書を活用し、さらに関連書籍を学習すること（2時間）が求められる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

心理コースのディプロマポリシーは2つあるが、その一つは、「人間の精神機能と心理学の研究法の知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる」である。対2)基礎心理学の授業は、人間の精神機能の知識を提供しており、このディプロマポリシーに関わっている。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

対2)基礎心理学は対面授業である。しかし、学生の科目履修状況により、オンデマンド授業になる場合がある。オンデマンド授業の場合、授業内容は上述したシラバスと同一である。